



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません」

聖書(ローマ書13章8節)

牧師 河合裕志

パウロは「誰に対しても借りがあってはなりません」と言う。Aから1万円借りた。10万円借りた。個人からお金を借りることはあまりよくないけれど、場合によってはそうしたこともあるかも。そうした時にはキチンと返済しなければ。もし返さないことになる二人の友情はこわれることに。

あるいは交通事故を起こして先方に多大な損害を与えてしまった場合には賠償責任が発生。これも大きな借り。出来るだけ早く返済し誠意を示さなければ。

とに角お金関係ではいつも身辺をきれいにしておきたいもの。これまで誰かから借りてそのままになっているものはないかなあ。

「だれに対しても借りがあってはなりません」、これはわかるけれど、わからないのはその前半、「互いに愛し合うことのほかは」、これはどういうこと？愛し合うことは借りにしておいていいよ、ということ？どうもそういうことらしい。そういうことになる。

金銭の貸し借りはお金でカタがつく、処理できる。しかし愛し合うという場合にはそうは行かない。そこには愛というものはお金に換算できませんよ、ということなのだろう。

私達は親の愛を一身に受けて大きくなった。右も左もわからない者を愛をもって育ててくれた。共に喜び共に泣いてくれた。誠に親の愛は限りなく大きく深い。

この親に対して私達は返済できるのだろうか。その積み積もった愛にどれだけのものをもってお返しできるのか。100万円差し出せばよいか。それはそれで親は喜んでくれるかも知れないけれどそれで充分ということはないのだろう。私達は親の愛の借りはずっと持つことになる。それでよいのだろう。ただ親の愛は決して忘れず感謝に覚えること。

親に限らず私達はいろんな人の愛、親切、助け、善意を頂いて今がある。お金をもって謝意を表す機会があればそうもするけれど、それで充分借りが返せたということにはならず、矢張りいつまでも感謝のうちに忘れないということだろう。

人を愛する、人から愛されるとはそういうこと。お金ではカタがつかない。真の愛は本来報いを当てにしないものだから。そんな愛をもって私達も人に接することが出来たらなあ。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時